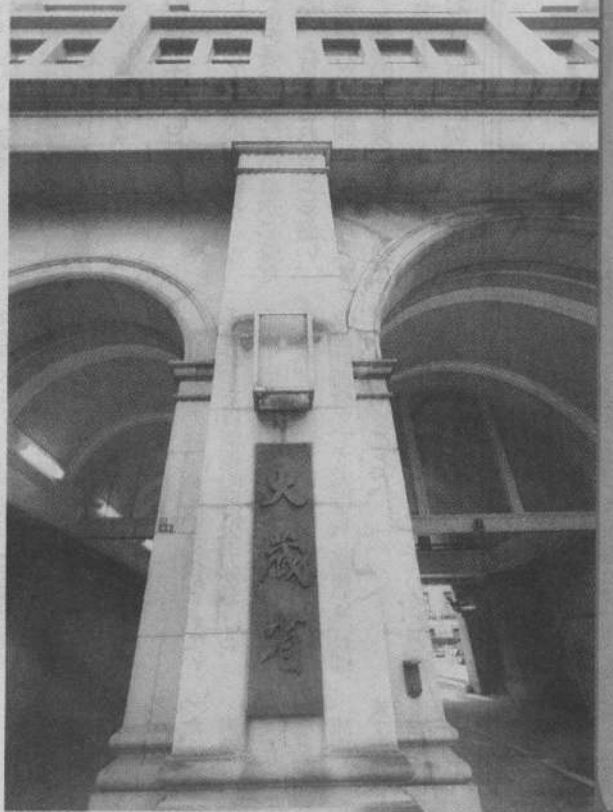


検証

# 崩拓銀

<9> 10.10.15



**大蔵省** 拓銀もかつてしてきた。銀行局幹部はすぐとはしたが、「...」と言いつつはMOF担に拓銀の資金繰り担当幹部にも、最悪の事態を予想せざるを得なかった。

（大蔵省担当）を置き、情報 自宅から電話を入れた。

銀行局幹部 「資金調達に影響が出るかもしれないかもしれませんよ」

拓銀幹部 「ダメーシは大きいでしょうね」

前後して、生命保険協会の藤田議長（朝日生命保険社長）は記者会見で「拓銀の問題は地域の問題。まず、地元が支援すべきだ」と突き放したような発言をした。大蔵省を頂点とする「金融村」から、拓銀はすでに見放されつつあった。

拓銀が営業譲渡を検討していた十四日、大蔵省はもう一つの切迫した問題に直面して

拓銀が営業譲渡を検討して

午後六時。同省四階の長野彪士証券局長の部屋に、拓銀の主要幹部である山一破たん後、同省の先送り体質が影響したのは事実だが、拓銀はいずれ債務超過で破たんする運命だった。寿命が一カ月縮まっただけ。拓銀問題は担当してきた大蔵省幹部は

しかし、縦割りの行政の弊害がここにも表れ「銀行局と証券局の間で相談はほとんどなかった」（銀行局幹部）。一連の破たん劇の後、金融システム全体をどうするかという書き真もなのまま、拓銀は個別問題「地域問題」として処理されていった。

「三洋、山一が重なったのが影響したのは事実だが、拓銀はいずれ債務超過で破たんする運命だった。寿命が一カ月縮まっただけ」。拓銀問題は担当してきた大蔵省幹部は

大蔵省としては、三洋証券を同時並行で処理しなければならず、省内をあげて対応に追われていた。

## 無策

拓銀が営業譲渡を決議した局内の空き部屋に、マスコミ昨年十一月十六日、大蔵省の四階にある銀行局の一室では、数人の職員が十七日朝の記者会見に向け、資料づくりを急いでいた。

作業は徹夜となったが、都市銀行の破たんという初めてのことにもかわらず、職員にはそれほど驚いた様子も見られなかった。

「もう駄目です。これ以上は無理です」。拓銀の河谷信昌頭取から大蔵省の中井省審議官へ悲痛な声で電話がかかってきたのは十四日夕。拓銀役員らが東京・丸の内パレスホテルに集まって、善後策を協議する数時間前のことだ。

早速、中井ら大蔵省幹部が道銀との合併交渉が難航し始めた以来、大蔵省は合併支

# 最後は「地域の問題」

援と破たんの「両にらみ」作するまで、大蔵省が行動を起戦に切り替えた。

十一月に入ってから、銀行局内では拓銀問題への対応が連日のように話し合われた。「拓銀が最善の努力をしないに考えるべきだ」

「大蔵省としては、破たん動こうという意見はほとんど出なかった。唯一の支援策といわれている十月中旬の大蔵省検査も、結果が出る前に拓銀が破たん

い破たんしたら、あとで大蔵省が責められる」

「拓銀が（破たんを）自覚か、自らの責任を問われるの

これまでの護送船団行政が批判されてきたのを意識して

大蔵省が合併から破たんへ大きく傾いたのは、十二月三

日の三洋証券の会社更生法の適用申請がきっかけだった。

発表直前に証券局から銀行局に「三洋がコール市場（短期金融市場）で債務不履行を起す可能性がある」と連絡した。長野は「できるだけこ

証券の野沢正平社長らが訪れた。野沢は「飛ばし」による含み損が生じたことと主力銀たかのように、冷やかに語

敬称略、同書は当時「拓銀問題取材班」